

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872000779		
法人名	社会福祉法人 明石恵泉福祉会		
事業所名	恵泉グループホーム		
所在地	兵庫県 明石市大久保町大窪2813番地		
自己評価作成日	令和 5 年 4 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和5年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_topjigyosyo\\_index](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigyosyo_index)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和5年5月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多職種連携にて、健康維持と認知機能の維持を目指して取り組み、心身機能の維持向上を目指して取り組んできた。コロナ禍でも、ご家族とのつながりを大切に出来るように、SNSの活用や広報誌を作成し送付してきました。利用者の方には、施設内でも楽しんで生活して頂けるように、レクリエーションの充実を図り、毎月の変り湯の実施や映画鑑賞会などを実施しました。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は明石市内で屈指の規模を誇る社会福祉法人が運営する総合高齢者施設の一角にあり、広大な敷地には特別養護老人ホームや老人保健施設、クリニック等が併設されている。「すべての人が幸せを実感できるサービスを提供する」という法人理念に加えて事業所独自の介護理念を作り、利用者が1日でも長くその人らしい暮らしができるよう支援している。理学療法士や管理栄養士と連携して策定する「生活期リハビリ」を取り入れた介護計画に沿って、利用者は職員と一緒に家事をこなし、園芸や体操、盤ゲームや塗り絵、映画鑑賞などさまざまなレクリエーションを楽しんでいる。理念に沿った職員の支援を受け、雑巾片手に拭き掃除に勤む最高齢の利用者や、職員にきものの着付けを伝授する利用者もいる。利用者個々の人生や思いに寄り添い、持てる力をさりげなく引き出すことで、本来のグループホームを目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を詰所に掲示しており、朝礼にて毎朝職員全員で唱和しており、理念に基づいたケアを実践出来るようにしている。	「尊厳」や「すべての人が幸せを実感できるサービスを提供する」等の文言を入れた法人理念を玄関ホールに掲げ、ホームページにも掲載している。職員は毎朝、理念を唱和しケアやサービス提供に反映している。この他、事業所独自の介護理念を作り、職員事務室に掲示している。事業所ではサービス提供の原点となる理念を新人研修や人事考課の評価項目に入れ、職員の理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行により、外出や外部との交流は制限されており交流は出来ていない。	地域の行事参加やボランティアの受け入れ、介護相談事業等、長年行ってきた地域との交流や活動がコロナ禍ですべて中断する中、昨年のクリスマスには隣接するケアハウスに法人の保育園児たちが3年ぶりに訪れ、利用者も参加して楽しく交流した。また、地域貢献として市との間で災害時、事業所に一定人数の地域住民を受け入れる防災協定を結んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支援として、地域の介護に関する相談を受けたり、法人内の相談員部門会議にて地域の状況や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の流行により、会議の開催は出来ていないが、書面での報告・意見を聞いている。	運営推進会議は隔月、民生委員、地域包括支援センター職員、市役所OB、利用者家族を外部メンバーに迎えて開催していたが、コロナ下で中断しており、議事録を関係者と全家族に送付している。議事録には利用状況や利用者の近況、行事等を写真入りで掲載し、事故報告や新型コロナ感染の感染状況も詳細に載せている。また、事業所には議事録を読んだ関係者や家族から意見や感想も寄せられている。	運営推進会議では双方向のやりとりが欠かせません。議事録に送付対象者の名前を記録し、発送後に寄せられた意見や感想を次号に紹介してはいかかでしょうか。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は運営推進会議に参加して頂くことは出来ていないが、必要な時に空き状況などの情報提供を行っている。	地域包括支援センターとは施設長や管理者が運営推進会議を通じて情報交換や、空き状況の情報提供も行っている。事故報告書や第三者評価報告書を介護保険課に提出している。市が主催するグループホーム連絡会や地域の健康課題の解決に向けた「まちなかゾーン会議」には施設長が進んで参加し、同業者や関係者と良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束虐待廃止委員が全職員に対して、勉強会を実施しており、拘束廃止に取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、防犯上から施錠しているが入居者様が出かける時には解錠することを掲示している	拘束虐待廃止委員会が活動している。年4回、法人内の勉強会に参加した職員が伝達研修を実施している。年末から年始にかけて新型コロナウイルスのクラスターが発生し、陽性の利用者を2週間、居室内に隔離した。本人・家族には状況説明をし同意をもらった。回復後に振り返りを行い、対応手順やマニュアルの見直しを行った。事業所の玄関は防犯上、施錠しているが、各ユニットの玄関は日中開放している。家庭菜園につながる外階段やエレベーターも自由に使え、利用者は館内を自由に行き来している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束虐待廃止委員が全職員に対して勉強会を実施。法人の研修会にも2回参加し、伝達講習を行っている。虐待の芽チェックリストを年2回実施している。	拘束虐待廃止委員会を作り、法人内の研修を通じて年2回事業所で伝達研修を行っている。事業所内では「虐待通報箱」を設置し、全職員を対象に年2回「虐待の芽チェックリスト」による点検を行っている。併せて職員には「ストレスチェックアンケート」を実施し、必要があれば法人内のクリニックを受診するように勧めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の勉強会を実施し、最低限の知識は持っていただけるようにしており、今後、後見人制度を利用したいと考える家族にも対応出来るようにしている。	成年後見制度を利用する利用者が1名おり、職員を対象に年1回成年後見制度に関する勉強会を開いている。勉強会では職員が講師を務め、基礎知識のほか制度のメリットとデメリットも伝えている。制度を利用したいと考える利用者・家族に対して事業所では基本的な内容を伝えるに留め、明石市社会福祉協議会の成年後見支援センターにつないでいる。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容に添って説明し、わかりづらいところは噛み砕いて説明している。また、重度化した時や法人内の別施設への移動が必要な時も施設の特徴など説明している。	契約前に可能な限り見学してもらい、契約時は管理者が契約書と重要事項説明書を読み上げながら丁寧に説明している。重度化した際の対応については事業所でできること、できないことを伝え、特別養護老人ホームや老人保健施設など法人としての受け皿を紹介している。緊急時の対応も説明し「心肺停止時の延命処置」に関する本人・家族の意向を書面で確認し、サインをもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からやりたいことを聞いたり、アンケートをとり、みたい映画など聞いて実現させている。ご家族とはLINEで繋がっており、気軽にご意見・ご要望を頂けるようにしている。	管理者や職員は日常的に利用者の声に耳を傾けサービスに反映させている。面会制限の中、家族等には電話や通信ツールで意見や要望を尋ねている。玄関先で携帯電話をかけながらのガラス越し面会は家族の声で実現した。運営推進会議の後で開いていた「家族の集い」を、コロナの収束後には復活させたいと管理者は考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、職員の意見や提案を聞き、実施していくようにしている。また、会議以外でも現場で出た意見を聞きすぐに対応して行くように努めている。	「現場のことは現場を知る職員の声を聞くのが一番。やってみたいことがあれば、やってみよう」というのが、管理者の考えである。職員が意見や提案する場としては日々の申し送り時の他、職員のリクエストで随時に会議を開いている。パンツに使用するパッドについて、職員の提案から利用者の体型や目的に合わせて銘柄やタイプの違うものを使い分けるようになった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員が個々に目標を立て達成に向けて取り組んでいる。半年ごとに、面談を行い、話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加させ、また、施設内部でも研修を各委員が年2回勉強会を実施し、自分達で研修資料を作成し開催している。資料内容を管理者が確認し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市介護サービス事業所連絡会、認知症対応型共同生活介護部会の定例会や研修会に参加し事業間の交流を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境に安心してもらえるように、様子を観察し、対応を話し合い、安心して頂けるように関わっている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの経緯などをしっかりと聞き取りを行い、職員で共有。担当職員もご家族と対面した際に要望などヒヤリングを行っている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、何に不安を感じているのかヒヤリングしたり、相談を受けた際には、法人内の他施設でのサービスの可能性も含めて話している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の現有能力を見極めながら、家事などできることは職員と一緒にすることで、家庭的な雰囲気を感じてもらえるように関わっている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを活用し、ご利用者の様子をこまめに報告したり、連絡を行っている。担当だよりを発送し、ご家族との信頼関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から、馴染みの方との連絡をご希望されたのでお電話をいつでもかけてきてもらえるように職員間で共有している。	携帯電話を持つ利用者もおり家族や知人と自由に通話している。事業所では馴染みの人からの電話の取り次ぎや、手紙や年賀状作りの支援を行っている。家族には広報誌や担当者直筆の便りの他、通信ツールを使って利用者の日常の様子を写真や動画で送り喜ばれている。家族に昔の写真を持ってきてもらうこともある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が、お互いの存在を尊重できるように職員が仲介したり、コミュニケーションがとれるように支援している。トラブル防止にも努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方に対しても、法人内の別施設の紹介や相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との対話や関わりの中で、ご本人の意向を聞いたり、普段の様子から汲み取るようにしている。	管理者は利用者の入居時に暮らし方の希望や意向を本人や家族等から聞き取り、フェースシートに記録している。入居後は利用者との雑談や関わりの中から新たに得た情報を申し送りや日常記録シートに記録し、職員間で共有している。事業所ではどの職員が介護しても介護計画に沿ったサービスを提供できるようにしているが、利用者をより深く知るために担当制を導入している。	利用者の思いや意向の把握は、その人らしい暮らしを実現する上で不可欠です。常に新しい情報が書き込まれる申し送りや日常記録シートだけでなく、普遍的な新しい情報を追記できる仕組みを作ってはいかかでしょうか。担当が変わった時や新任職員が見てもすぐに分かります。
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活ではあるが、個人での時間の過ごし方も大切にしている。家事や排泄などは、生活の様子を日常記録シートに記録し状態の把握や変化に気づけるようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議までに、ご本人やご家族には要望を伺ったり、担当の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画の各テーマに沿って、利用者の担当職員が毎月モニタリングしており、3か月毎に開催するサービス担当者会議を経て、介護計画を半年に1回以上見直している。サービス担当者会議には、管理者と計画作成担当者、利用者の担当職員に加え、「生活期リハビリ」に精通した理学療法士や管理栄養士が参加している。家族やかかりつけ医の意見はあらかじめ聞いて反映させている。「利用者ができないことに目を向けるのではなく、今できることを大事にした残存能力を引き出す計画書」というのが計画作成担当者の考えである。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプラン実践の記録を参考に1か月のモニタリングを記録し、本人の様子を把握、情報共有している。モニタリングの内容から計画内容の見直しを考えている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設のルールに捉われないことなく、相談があれば、検討し柔軟に対応していく。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設が高齢者施設であり、身近な社会資源として利用していたが、現在はコロナにて利用しづらい状況にある。周辺施設を散歩している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人内クリニックの説明をし、希望の方にはかかりつけ医にしており、週1回法人内のクリニックより医師と看護師が往診にきている。月1回の眼科往診や歯科の往診も希望している方は受けている。	かかりつけ医の選択は自由であるが、ほぼ全員の利用者が法人敷地内のクリニックをかかりつけ医にしており、毎月1回の訪問診療を受けている。入居以前からの精神科や脳神経内科を家族が付き添って受診している利用者もあり、家族から受診結果の報告がある。かかりつけ薬局が薬を届け、配薬ボックスにセットしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、日常の様子から気づいた変化など伝え、体調不良時には、電話や往診時に相談し、受診など相談している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院のソーシャルワーカーに定期的に連絡をとり、状態の把握や退院の予定など確認している。病院より退院許可が出れば速やかに受け入れを行うようにしている。	入院した後に重度化して退居した利用者もあるが、緊急入院後に3日で退院できた利用者もある。コロナ下では退院前カンファレンスが無く、電話や退院サマリーの情報で受け入れ態勢を整えている。入院によって認知症が進行してしまったケースもあるが、回復を見ながら介護計画を適宜に見直している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学や入居契約時に施設でできることとできないことを説明し、終末期になった場合の対応もご家族と意向など話し合いながら検討して行くようにしている。	かつて、痛みがなく医療的ケアの必要もなかった利用者の看取りを経験しているが、事業所としては積極的な看取り態勢の表明はしていない。事業所としてできることとできないことは契約時に口頭で説明し、利用者が重度化した際には法人の敷地内にある特別養護老人ホームなどへの転居を提案している。	事業所としてできることとできないことを、文書化して説明することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故についての勉強会を実施したり、緊急時に対応できるように、急変対応のフローチャート・マニュアルをファイルしている。市民救命士の資格も全職員が所得している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震を想定した避難訓練を年2回行うようにしている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を行っている。火災発生ボタンを押すと、敷地内の事業所に火元が自動通告される。利用者が居室から避難した場合、「確認済」のマグネットの札を居室のドアに貼り付ける手はずになっている。職員への連絡網は電話を使っている。避難経路を示した見取り図が廊下に貼ってあるが、示している方向が実際の方向と合致していない。	災害発生時の職員の連絡網は、感染時に使っているのと同様のSNS網にすることが望まれます。避難経路図を、見やすいサイズに拡大するとともに、避難方向を示す矢印が実際の方向と合致する場所に貼ってください。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員が中心となり、接遇関する研修会を行い、接遇マナーを身に着けられるようにしている。毎月、職員が輪番で接遇目標を考え、詰所に掲示し朝礼にて唱和していた	「笑顔」「挨拶」「身だしなみ」「言葉遣い」「態度」の接遇マナー5原則など、委員会活動や研修を通じて接遇に力を入れている。食堂やデイルームにいる利用者をトイレへ誘導する際には、「お部屋に行きましょう」などと声をかけて居室内のトイレへ誘導している。浴室の脱衣所と職員が入り出る洗濯場は別室になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のやりたいことや想いを話して頂きやすいように職員は常に心がけ、汲み取った思いから自己決定が出来るように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアの実施、生活期リハの取り組みや生きがい支援を行っている。決められた時間をご利用者の生活を送るのではなく、自分のペースで生活して頂く様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方には、入浴後お化粧直しを声かけしたり、整容の介助を行って身だしなみを整えて頂いている。		



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(配膳や配茶)をお願いしたり、洗い物や食器拭き、片付けなどを職員と一緒にやっている。	法人として食事に力を入れている。隣接する事業所の厨房で調理し、適温状態で届けられる。朝食では米飯かパンを選択できる。事業所内の各ユニットのキッチンで炊飯し汁物を温めて盛り付けている。利用者も、盛り付け、お茶やお箸配り、食後の片付けや食器拭きを手伝っている。事業所内の菜園で利用者が職員と一緒に育てたなすびやプチトマト、トウモロコシなどが献立に加わることもある。管理栄養士がユニットを回って利用者から食事の感想を聞き、毎月の給食会議に反映させている。管理者が職員を代表して検食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や時間外に摂取した嗜好品や飲み物も記録に残し、摂取量を確認している。管理栄養士に相談したり、必要であれば主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者に応じて、食後の歯磨きの見守りや声かけだけでなく、介助したり、ご本人が磨いたあと、仕上げ磨きも行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の決まった時間に誘導するだけでなく、ご本人の様子をみて、トイレに案内している。	布パンツや、パッドを入れないリハビリパンツを着用している利用者が複数おり、おむつを着けている利用者はおらず、全員がトイレで排泄している。完全に自立して排泄している利用者が約6割で、4割の利用者は職員が排泄チェック表の排泄リズムを見ながら、適時に声を掛けてトイレへ誘導している。パッドを使用している利用者には、利用者個々の状態に合わせてパッドのサイズ、吸収度などを細かく調べて選定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールに下剤も使用するが、腹部のマッサージをしたり、水分を強化したりして、自然な排便を促す努力をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めているが、無理強いせず、拒否が見られた際は別の日に入浴して頂く様にしている。入浴が楽しんで頂けるように変わり湯の実施もしている。	毎週2回の入浴を基本としているが、利用者の状態に応じて柔軟に対応している。現在は全利用者が女性であり、同性介助をしている。入浴を嫌う利用者には、担当職員を代えたり別の日に入浴を勧めている。浴室は同時に3名が入れる広さで、浴槽は深い階段と手すりによって安全が保たれている。季節湯として、湯船に桜の花びらやミントの葉、ゆず、しょうぶなどを、又、「変わり湯」として大根の葉っぱなど浮かせている。利用者は好みのシャンプーや石鹸を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を大切に、続けられるように支援している。体調や年齢に応じて休息の時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などあった際は、申し送りで共有、またその後の様子観察を行う。薬剤師にも疑問のある時は、質問して情報収集している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活期リハで生きがい・やりがいのある役割の支援をしている。個人のおやつを食べてもらったり、楽しみのある暮らしをしてもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、外出が制限されているため、自由に外出は出来ないが、防止策を行いながら法人内の散歩や車でのドライブを行っている。	日常的には法人の広い敷地内を15分くらいかけて散歩することが多いが、敷地内には桜の木もあり季節感を味わうことができる。菜園で土いじりをしたりベンチでの外気浴が利用者の気晴らしになっている。事業所の車に車椅子を積んで、近くの公園へ出掛けることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用することがないが、ご本人が希望して所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、ご自分で家族に電話をしたり、知り合いにもかけている。ご家族を想って手紙を書いてもらうことを続けていて、遠方のご家族からはお返事を頂いたりしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや玄関には、季節を感じられる飾りつけをしたり、庭には季節の花や野菜を植えている。	ゆったりとした食堂の他に、ソファが置かれた広いダイニングがあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。一直線に伸びている広い廊下はクッションフロアで、冬季には食堂と同じく床暖房となる。床や腰板、手すりは、利用者が職員を手伝って雑巾がけやコードレスの掃除機を使って掃除をしており、築後23年とは思えない程に磨かれて光っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に使用して頂けるようにしており、利用者同士が部屋の行き来も自由にされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、ベットやタンス、布団など馴染みの物を使用して頂いている。冷蔵庫や仏壇などを持参され、思い思いの部屋になっている。	木目調の居室のドアには格子付きの大きな曇りガラスがはめられており高級感が漂っている。ドアの横の名札ボックスの上部に利用者の写真が装填できるようになっており、「緊急時、歩行にて避難」など緊急避難時の支援識別文字が貼られている。室内はフローリングで、エアコン、トイレ、引き出しと鏡付きの洗面台、照明、防災カーテンが準備されている。トイレの仕切りはカーテンになっており、出入りが容易である。利用者はベッド、衣装ケース、タンス、飾り棚、小机、椅子、冷蔵庫、思い出のアルバム、仏壇、配偶者の遺影、趣味で作った作品などを並べて、自由で個性的な空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室のカギを管理できる方には、お渡しして戸締りもして頂いている。外階段やエレベータも自由に使用して頂いている。		

(様式2)

事業所名: 恵泉グループホーム

## 目標達成計画

作成日: 令和5年7月14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍にて運営推進会議の開催が書面のみになっていた。意見の交換ができていない。	運営推進会議を書面だけでなく、実際に開催し、運営状況の報告、意見の交換を行える様にする。	2か月に1回の運営推進会議を施設で開催、参加して頂く様にする。	6月
2	35	災害発生時の職員の連絡網をSNS網を使用していなかった。	災害発生時の職員への連絡も、SNS網を活用し、手順を簡素化する。	災害発生時には感染症発生時の手順と同様にSNS網を利用して一斉に職員に連絡できる様にする。	1月
3					月
4					月
5					月

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )